

押小だより

て ん し ん ら ん ま ん

天真爛漫



令和5年6月16日
さくら市立押上小学校
令和5年度 第5号
文責：仁平 博幸

修学旅行に思う

前回（第4号）の天真爛漫でもお知らせしましたが、5月25日（木）から26日（金）にかけて、6年児童の修学旅行を実施しました。ここ3年間、新型コロナウイルス感染症の関係で東北方面でしたが、今年度は4年ぶりに東京・鎌倉方面を訪れました。私も、校長としてはじめて修学旅行に参加・引率しまして、いろいろなことを感じ、考え、学ぶ機会をいただきました。今回は、そのことをお伝えいたします。

遠足や宿泊学習、修学旅行にのぞむ際には必ず事前学習を行います。6年生の子どもたちも、旅行前、訪問場所を調べたり、鎌倉での班別自由行動の計画を立てたりしながら、当日を迎えました。

出発3日前、私は、6年生に話をする時間をいただきました。そこで、「ルールとマナー」「感謝」「チャレンジ」という3つを旅行中、頭に入れて楽しんでこよう、と子どもたちに話しました。

①「ルールとマナー」については、団体で行動することや公共の場所を訪れることをふまえ、みんなが気持ちよく過ごすために大切であること。

②「感謝」については、この修学旅行は自分だけで行けるものではなく、いろいろな人にお世話になっていること、特におうちの人に感謝の気持ちをもって行動すること。また、関わる方への感謝の気持ちは挨拶で表せること。

③「チャレンジ」は、「してみたいこと」例えば「行ってみたい」「食べてみたい」「買ってみたい」ことはどんどんチャレンジしてみしてほしいこと。チャレンジすることは、その結果が「成功」でも「失敗」でも「よい思い出」になる。「やらないで後悔する」（やればよかったな…）よりも「やって後悔する」（やってみただけだめだったな…）の方が成長につながるので、修学旅行でも様々なことにチャレンジしてほしいこと。

このようなことを6年生に伝えました。子どもたちは真剣に耳を傾けながらも、とても旅行を楽しみにしている様子がこちらにひしひしと伝わってきました。



さて、修学旅行は、単に6年生の大きな学校行事というだけでなく、これまで本校で積み重ねてきた教育の成果が表れる場だと思っています。学校の中で指導してきた様々なことが、修学旅行という学校外の実社会でどのように表れるか…それは、とても教師として心配でもあり楽しみでもあります（心配の方が大きいのですが…）。教師がいてもいなくても、マナーやルールをしっかり守れるか、挨拶がしっかりできるか、また子どもだけの班別活動が（多少のトラブルはあっても）みんなで協力してできるかなど、私も心配しつつ修学旅行にのぞみました。



修学旅行初日、多くの保護者の見送りをいただき学校を出発しました。天気もよく、行きのバスからは薄曇りにもかかわらず富士山が見え、日頃の行いがよいのですねとガイドさんからおほめの言葉もいただきました。初日は東京見学で、国会議事堂、スカイツリー、日本科学未来館を訪れました。一日をとおして、挨拶、時間、助け合いなど6年生の素敵な姿がたくさん見られた旅行初日でした。

2日目、6年生の子どもたちは鎌倉を訪れました。「鎌倉殿の22人」の6年生は、高德院の鎌倉大仏をみんなで見た後、班別自由行動で、活動班で思い思いの場所を訪れたり、お昼ごはんを食べたり、買い物を楽しんだりしました。食べてみたいものを買って食べてみる、おみやげを計算しながら買う、分

からないお店があると、近くのお店の人に場所をたずねるなど積極的に行動していました。

以前に関わった仕事でも感じたことなのですが、こういうときにどんどん「見てみたい」「行ってみたい」「食べてみたい」ということに物怖じせずチャレンジできることは、エネルギーがあって積極的で、最高学年としてリーダーシップを発揮できる子どもたちだと思います。



夕方、6年生がたくさんの思い出とともに修学旅行から無事戻りました。子どもたちの挨拶やマナーのよさ、決まりをしっかり守る真面目さ、友達と仲良く行動できる協調性にとっても感心するとともに感動と幸せをもらいました。

そうなんです。このような、子どもたちの素敵な行動や態度、心構えにすっかり出発前の私の心配事は吹き消され、私自身も心に残る修学旅行となりました。あらためて、子どもたちに感謝しています。6年生のみんな、ありがとう。

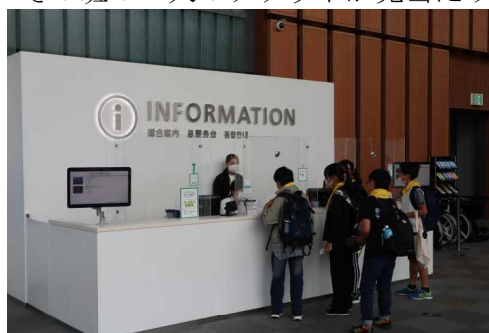
※素敵なエピソードを2つご紹介します。

(エピソード1)

1日目、日本科学未来館でのことでした。班別に館内を見学していたところ、チケットが必要な場所がありました。チケットは入館するときに渡されていたのですが、その班の一人のチケットが見当たりません。すると、班みんなで「上着のポケットにあるんじゃない?」「エコバッグの中は?」など心配しながら探すのを手伝います。でも、どうしても見当たりません。そして、「インフォメーションカウンターで相談しよう」と話し合っ、みんなでカウンターに行って、案内の人に相談をしました。一度だけ再発行することができるとのことで、それを聞いた本人だけでなく班みんなが自分のことのように「よかったね」と胸をなで下ろしていました。なくしたことを責めるのではなく、みんなでどうすればよいか考え行動できる子どもたちを見てうれしさを感じました。

(エピソード2)

2日目朝、ホテルを出てバスに乗って出発した後のことです。ホテルから添乗員さんのところに電話連絡が入りました。添乗員さんは「忘れ物か何かかな」と思って電話に出たところ、「どの部屋も忘れ物無く、そして部屋がとてもきれいになっていました」というホテルからのお礼の連絡でした。テレビのリモコンまできちんとそろえていた部屋もあったそうです。そしてどの部屋もそのまま次のお客さんに使ってもらえるぐらいだったとのことです。添乗員さんも「長いこと添乗業務をしてきたけれど、ホテルの人から部屋がきれいでありがとうございますという連絡をもらったのは初めてです」とお話ししていました。使ったものや場所をきれいにして戻すということができる「感謝」の気持ちを行動で表せ、片付けや整理整頓といった「後始末」がしっかりできる子どもたちに感心しました。



以上、修学旅行から感じたことをお伝えいたしました。この2日間で6年生は大きく成長したと思います。6年生の姿は学校の姿に直結します。ぜひ、その力を本校の成長に結びつけてもらえるよう一層活躍することを願っています。保護者のみなさまにはいろいろと準備などにご協力いただき感謝申し上げます。5年生以下の子どもたちも、6年生になったときに素敵な思い出になる修学旅行となるよういろいろな力を今から育めるよう学校としても支援、指導していきたいと思っています。引き続きお子様の成長のためにご協力くださいますようお願い申し上げます。(仁平博幸)